まなびの部屋

問 中央公民館：0869-22-3761
長船町公民館：0869-26-2501
牛窓町公民館：0869-34-5663

学級生募集

高齢者学級

公民館では、高齢者を対象とした講座を開講しています。講演会や演奏会、移動教室（研修旅行）など、多彩な講座を計画しています。ぜひご参加ください。年会費は、1、800円です。

【邑悠学級】

▽**対象者**　市内在住の60歳以上の人
▽**日程**　毎月第3木曜日
▽**場所**　中央公民館（邑久）

【いきいき学級】

▽**対象者**　牛窓地域に在住の60歳以上の人
▽**日程**　毎月第4金曜日（4月はお休みです）
▽**場所**　牛窓町公民館

【ふれあい学級】

▽**対象者**　長船地域に在住の60歳以上の人
▽**日程**　毎月第4木曜日
▽**場所**　長船町公民館

■**問い合わせ先**
各公民館

免疫力をつけよう 四季の重ね煮講座

旬の野菜を使った「重ね煮」を学んで、健康で元気な身体づくりに役立ててみませんか。

中央公民館と長船町公民館では、平成24年度から四季の重ね煮講座を開催します。

事前に申し込みの上、ご参加ください。

▽**講師**　小山津希枝さん
▽**日程**

【中央公民館（邑久）】
4月12日(木)、7月12日(木)、9月13日(木)、12月13日(木)

【長船町公民館】
5月10日(木)、8月9日(木)、10月11日(木)、1月10日(木)

▽**時間**　午前9時30分～午後1時
▽**参加費**
・年間登録料（300円）
・材料費（3、700円）
▽**持参するもの**　エプロン、三角巾、布巾
※各会場とも4回全て参加できる人が対象です。

■**問い合わせ・申込先**
中央公民館

楽しく踊ろう フォークダンス

フォークダンスとは、世界各地で踊られ、国や地域により、特色ある振り付けや衣装が魅力的です。

そんなフォークダンスに触れ、実際に踊ってみませんか。

事前に申し込みの上、ご参加ください。

▽**講師**　湯谷光男さん
▽**日時**
4月4日(水)、4月11日(水)、4月18日(水)、4月25日(水)
※時間は、いずれも午後1時30分～午後3時30分
▽**場所**　長船町公民館
▽**参加費**　無料
▽**問い合わせ・申込先**
長船町公民館

今月のおすすめ本

できることをしよう。
糸井重里　ほぼ日刊イトイ新聞…著
新潮社

東日本大震災から一年が経ちました。遠方の地のわたしたちに、今何ができるのか。この本に登場する「ふつうの誰かさん」は、わたしたち自身でもあります。できることをできる場所でやり続けたい。そう思える本です。

Books

ちきゅう
G・ブライアン・カラス　…作・絵
庄司太一…訳　偕成社

わたしたちは毎日普通に暮らしながら、宇宙を旅している。そんなふうに考えたら、どきどきしませんか。小さいお子さんはもちろん、これから新生活を始めようとしている学生や社会人にもおすすめです。

今月の月末図書整理日（お休み）は、
4月27日（金）です。
■貸し出し・問い合わせ先
瀬戸内市立図書館　☎0869－22－3761
長船町公民館図書室　☎0869－26－2501
牛窓町公民館図書室　☎0869－34－5663
HP　http://lib.city.setouchi.lg.jp/index.htm

瀬戸内発見伝

巻の八十七

地域に残る昔話③
鼠島の柄杓

錦海塩田跡地の東側に広がる瀬戸内海に、お椀を伏せたような小さな島がぽつんと一つあります。この島を「鼠島（ねずんじま）」といいます。

「鼠島」という名はネズミがうずくまった形をしているから名付けられたとも言われていますが、確かなことはわかっていません。

今回は、この島に関する昔話を紹介します。

鼠島の小さな泉

それは、漁師が、手こぎで漁をしていた頃の話です。鼠島は矢竹で覆われ、頂上には良い枝ぶりの松が3本ありました。その松に囲まれるように、小さな泉がありました。

この泉からは、不思議なことに、水がこんこんと湧いて、雨の降らない日がどんなに続いても、干上がることがありませんでした。そこで、漁師たちは、船に積んでいる手桶の水が切れると、鼠島にこぎ寄せて、泉の水を汲んでいました。

柄杓を見つけた漁師

ある日、村の漁師が釣りに出ると、魚が餌を待っていたかのように次々に釣れました。夢中で魚を釣っているうちに、漁師は喉が渇いてきたので、鼠島の泉に行き、腹ばいになって、思う存分水を飲みました。

水を飲んだ後、漁師が休憩していると、泉の向こうに真新しい柄杓（ひしゃく）があるのを見つけました。漁師は「あれで飲めばもっとうまかっただろうに」と残念がりました。

瀬戸内海に浮かぶ鼠島（写真中央）

柄杓がまだ新しかったため、漁師は何かの役に立つかもしれないと思い、船に持ち帰り、元の釣り場に向けてこぎ出しました。

漁師と幽霊

漁師が釣り場に着く頃になると、にわかに辺りが暗くなり、生暖かい風が吹き始めました。その後、風は一気に烈風となって海は荒れ、沖合からは猛烈な波しぶきが吹き寄せ始めました。漁師は、急いで港に戻ろうとしますが、波で大きく船が揺れ、平衡を保つのがやっとの状況でした。

やがて、雨も降り始め、船に吹き付けてきます。老巧な漁師はなんとか船を進めますが、必死にこいでも、なかなか陸地にたどり着くことができません。波しぶきと豪雨のために、船に水がたまってしまいました。漁師は、「早く水をかえねば（かき出さなければ）沈んでしまう」と船をこぐ手を休め、一生懸命に水をかき出しましたが、一向に溜まった水は減りません。

漁師が、ふと顔を上げると、髪を振り乱したずぶ濡れの白衣の女が、白い手に小さな柄杓を持って船に海水を汲み込んでいました。柄杓は小さいのに、水はドドッ、ドドッと入ってきます。漁師は背筋がぞうっとして、震えが止まらなくなりました。「幽霊だ。こりゃ助からぬ」と思った漁師は、念仏を唱えながら、再び船をこぎました。

港の沖を漂っている船が発見され、漁師が救助されたのは翌日の早朝のことでした。意識が回復するまでにはさらに日数がかかったそうです。

このできごとがあって以来、村の人々は、鼠島の泉の水を飲んだ次の日には、お礼に柄杓を泉の側に供えるようになったそうです。

参考文献
『牛窓春秋12』昭和58年
牛窓春秋会